産業振興へ大胆な展望を
県や近隣市と連携で取り組む

熊谷隆一議員　町民融和と地域バランスに配慮した美郷町の町づくりは、誕生してから、2年4カ月ながら、町民の一体感が醸成されて来ていると感じる。だが、国の構造改革によって公共事業が減り、建設業は大変厳しい状況にあるし、基幹である農業も、米価下落の影響を強く受けている。

　この現実を踏まえ、町の経済を豊かにし、課題を解決していくには、産業振興の展望を大胆に描くべきでないか。隣県岩手の金ヶ崎町の自動車工場の例もある。また、秋田県でも自動車産業や航空機産業など、製造業の誘致の動きが見られる。町の積極的な取組みを期待したいが。

町長　これまで、町内企業ガイドを作成したり、美郷町企業連携協議会の設立を期に、企業間交流や研修を図るなど、町内企業への支援をしている。企業の中には、自動車関連部品製造への事業拡大や、工場増設など、新規雇用の増加が見込まれる所もある。

　新たな企業誘致に係る取り組みについては、県企業誘致推進協議会への参加や太田区の太田工業連合会と町内企業との意見交換会の開催をしている。県が進める、自動車産業や航空機関連産業の誘致については、県の取り組みに参画し、町も含めて、通勤可能な近隣市との連携した取り組みで、新規雇用の拡大を図りたい。

熊　谷　隆　一議員

荒れた河床の管理は
県に要望、町でも調査し対応す

熊谷議員　町では水を大切な資源と位置づけ、水環境保全の各種施策がとられている。土崎地区の下川原橋付近では、11月頃になると、サケの産卵する姿を見る事が出来る。これは水質改善の表れだと思う。これまで、河川の管理は、各農家や、河川愛護会が中心となって堤防の草刈りなど、行われているが、真昼川や、赤倉川など、河床に大量の土砂が堆積し、木が生えて、林の様な状況の川がある。防災の面や、景観維持の観点から早急な調査と対策が必要と考えるが。

町長　一級河川は県の管理となっており、しゅんせつや伐木も県が行っているが、除去した堆積物の処理費用の関係などから、事業実施まで時間がかかっている。引き続き要望していくが、町管理河川については調査し対応していく。17年度は丸子川妻の神地区での洲さらい、出川釜蓋地内の伐木、18年度は、真昼川の川原地内で護岸工や、善知鳥川での床固め河道整正事業を実施している。

真昼川

公共施設の統廃合は 早期に方針を示す

福田守議員　合併後２年が経過し予想以上に財政が逼迫している。現在、目に見える形であらゆる科目の補助金の削減、給与などのカットでしのいでいるが、これだけではそう長くは続かないと思う。今後公共施設の統廃合を早期に進めるべきと思うが。また、役場の分庁方式についてもあわせてうかがう。

町長　合併の意義や目的を考慮するとともに、今後の政策財源の確保を見通すと、現在のまま公共施設を管理運営していくことは厳しい状況にあると認識している。具体的には町で管理運営している公共施設の利用状況、管理運営費などの調査を行い関係各位にも意見交換しながら、できるだけ早期に方針をまとめるように努める。また、分庁方式については、旧町村の庁舎が合併後も存続することから町民の安心感確保という観点で大きな役割を果たしてきたと認識している。合併後の不安感が次第に解消されてきており、さらに職員が漸減している状況の中で円滑な業務推進を果たすには、この方式を維持するのは困難と思う。今後公共施設のあり方を検討する中で方向性を見い出したい。

福　田　　守 議員

小学校の統廃合は 検討委員会を立ち上げる

福田議員　少子化問題に伴い学校の（特に小学校）統廃合も今後視野に入れていかなければならないと思う。出来るなら地域と共有し、伝統ある学校を守りながらこのままの姿で子供たちに学んでほしいが、学校教育は知識を教えると共に集団生活の中で組織の一員としての自分の役割、立場などを自然な形で理解しながら育つことが大事と考える。このような中で県内でも統合が進んでおり、羽後町・仙北市の角館でも統合になっている。美郷町はどのように考えているか、また、給食センターについて今後、生徒数が減少した場合再統合もあるのかうかがう。

町長　現在、小・中児童生徒数は千８１７人で10年前より８６８人減少している。このような状況と観点から、19年度において学校と地域の関係も認識しながら望ましい学校教育の将来構想について学区再編も視野に入れた検討委員会を立ち上げる。また、給食センターについては状況を考慮すると、これまでどおり２センターで提供するのが望ましいと考えている。